

東洋と西洋を共有するベルギー前衛作家  
「パトリック・ジェロラ」展

Fuji-tv ART NET

とにかくこの色彩は圧倒的！  
ベルギーの民間大使と呼ばれるジェロラの作品には、  
「赤富士」を思わせる日本の美がある。



パトリック・ジェロラ

ジェロラは、ベルギーの首都ブリュッセルに生まれ、現在、日本を拠点に創作活動を行う作家です。本展覧会では、ジェロラが1997年から2005年に制作したフレスコ画60点、ブリュッセル名物の小便小僧に彩色を施したオブジェ42点等106点を展示します。中でも本展覧会に向けて制作される世界四大宝石(ダイヤモンド・サファイア・ルビー・エメラルド各25個、合計27.98カラット)を埋めた新作《祭り》は必見です。また、本展覧会ではジェロラ本人が展示空間を演出すると共にドキュメンタリー映像や写真を通して作家とその活動に迫ります。

色彩が光と音を奏でる世界 自然が作り出す鮮やかな色の数々を軽井沢で堪能する

吉田 麻由子(メルシャン軽井沢美術館事務局)



【拡大】  
《赤色の背景の花束》1999年 フレスコ  
／カンヴァス

ジェロラは、画家である母の影響を強く受けながら育ちました。ブリュッセル王立美術アカデミー卒業後、1981年から「モダンバレエの魔術師」モーリス・ベジャール主宰の舞踊学校「20世紀バレエ団」や、同バレエ団で振付・芸術監督を務めるミシャ・ヴァン・ウック率いる劇団「ムードラ」で舞台美術を手がけました。その後、1983年に生活と創作活動の拠点を日本へ移し、つくば科学万博フランス館の装飾(1985年)や壁画制作等を積極的に行いました。現在は、愛知万博ベルギー館への出展準備やテキスタイルデザイン等にエネルギーを注いでいます。さらに、ジェロラは「ベルギーの民間大使」と言われる程、ベルギーと日本の文化交流に積極的に係わり、両国の懸け橋として活動しています。

本展覧会では、ジェロラによる近年の風景画を中心にご紹介させていただきます。「自然界に存在する自然固有の色は、人間を活気付ける薬の役割を果たす」と考えるジェロラは、土、石など自然由来の素材を利用して自ら色を創り出し、作品に用います。特に、本展覧会で主に展示される近年のフレスコ画による風景画は、その独特な色彩とリズム感のある線やフォルムによって、自然の息吹、そして光と音が溢れ出す様な官能的な世界をも創り出します。鎌倉にアトリエを設けた1989年以降、ジェロラの作品には、自然と共存し、巧妙に光を取り入れる日本文化の影響が顕著になります。「感じた事を描く」というその作品は、東洋人に西洋を、西洋人に東洋を彷彿させます。

また、ジェロラの作品は、バレエが舞踊だけでなく舞台美術や音楽等様々な要素が調和して初めて一つの作品となるように、それ自体が確固とした存在感を示しながら、その周辺をも活かして総合芸術へと発展していきます。



【拡大】  
《鎌倉》2000年 フレスコ／カンヴァス



【拡大】  
《おもちゃ》2005年 フレスコ／ポリ  
エステル製の割型

### ★宝石プレゼントキャンペーン実施中！

メルシャン軽井沢美術館開館10周年と「パトリック・ジェロラ」展開催を記念してパトリック・ジェロラが選んだベルギー、アントワープの名門宝飾メーカー「ディアマーニ」社の50万円相当の指輪またはペンダントトップのいずれかを各1名様にプレゼントします。

